



平成24年度 まち・きらきらセミナー 第5回概要

平成25年3月15日(金) 18:00~20:00
市民活動ネットワークセンターみさわ 第1・2会議室

1. 講師	NPO法人 あおもりNPOサポートセンター 理事長 田中 弘子 氏
2. 内容	<p>○最後のセミナーとなり、三沢の魅力について話し合いをしたことをまとめ、発表をした。</p> <p>○田中先生から一言</p> <p>弘前市で様々な市民活動をしている団体が連携し、弘前駅前のビルの空きスペースを利用して事業を計画している。現在は、11の市民団体が運営協議会を立ち上げ、7月のオープンに向けて動き出している。</p> <p>この事例を通して感じたことは、今は行政だけで物事を決めていくのではなく、機会があれば活動している団体と一緒に取り組んでいくという時代に入っているということ。</p> <p>今日は発表となるが、これで終わりではなく、何のために発表するかを考える。女性の視点からみて、三沢のまちがきらきら輝くためにはどうしたらいいかを考える発表であるため、発表後どのように活用して発信していくかということをつなげていく。そして、このセミナーをきっかけに、学習したことを各々の団体に持ち帰って活動に役立ててほしい。また、このメンバーの中で小さくてもいいからネットワークを組んで、やがて弘前のように、行政と市民団体が一緒になって、コミュニケーションを形成して事業企画ができると、とても頼もしいまちになると思う。三沢の市役所にせっかく市民協働推進係があるので、大切にして、どんどん自分たちの活動を広げてほしい。</p> <p>～前回に引き続き、各グループが発表に向けて総仕上げをした～</p> <p>【グループ ミラクル】</p> <p>ミラクルTVと名付け、ほっき井キャラクターのホッキーナとほきのすけや、ごぼうなどを使った『ミラクル5分クッキング』と題し、メニューも考え完成させた。</p>  <p>【グループ まちづくりサポートし隊】</p> <p>三沢市の地図を描いた上に、市内の温泉や観光スポットの写真を位置する場所に貼って、三沢市の地図を完成させた。三沢のまちを元気にするための方法をまとめた。</p> 

【グループ みさわ リ♡メイク】

三沢の歴史の一つである六十九種草堂について、若い方に知ってもらい、歴史を活用してまちの活性化につがげる。そのためには、どのように歴史を伝えていけばいいかをまとめた。



～グループごとの発表～

【グループ ミラクル】

この講座をとおして、ミラクルが起きたらいいなという想いを込めて、ミラクルというグループ名を作った。今回は、グループ名のミラクルにちなんで、ミラクルTVという形でお伝えしたい。

三沢の特産物は、知っている人も多いと思うし、三沢に住んでいて英語を話す機会があって、英語に触れる環境も揃っているけど、英語を話せる人は一部の人。何か楽しいことと英語が一緒であれば話せるチャンスがあるのではと思い、ミラクルTV 5分クッキング in MISAWA という名前で、外国人の方と会話をしながら料理をして、マックテレビで放映することを考えた。



◎田中先生からの講評◎

5分のクッキングでも、子どもたちが英語を吸収することはすぐにできる。日常の英会話が耳に入ってくると、親子で英語を話しながら料理したりできる。この5分クッキングに限らず、三沢にはまだ魅力なものがあるので、工夫次第でできると思う。日常の中で英語に触れられることはうらやましいこと。三沢の魅力を上手に引き出している。

【グループ まちづくりサポートし隊】

まちづくりをサポートしたいという気持ちと、グループの隊をかけて、まちづくりし隊という名前にした。

たくさんある三沢の資源や観光資源を紹介する中で、温泉を的に絞った。市内に住んでいると、温泉に出向くことはあまりないが、温泉が数多くあることは魅力の一つであると考えた。市内には12か所の温泉があるが、ただ温泉に入って終わるのではなく、オプションとして、温泉のオリジナル浴衣をもらおうというサブテーマを考えた。例えば、観光客や外国人にとって、温泉の浴衣は魅力であり、最近では若い人にも浴衣が人気だということに着目し、オリジナル浴衣ができればと思う。温泉協会があれば協賛で温泉の名前が入った浴衣を作り、期間を決めて夏の間、市内の12か所の温泉を巡るとオリジナル浴衣がもらえるという発想。また、期間中は温泉巡回のバスが運行すればいいと思う。そして、その浴衣を着て七夕まつりや港まつりに来ていただいて、三沢の楽しさをアピールして発展につなげていければと思う。最後に、この提案をきっかけに、また1年間このグループで別な案件を探して、



その時流行っているものを、元に企画できればと思う。

◎田中先生からの講評◎

浴衣の話題が出たので、お祭りのようなものができれば面白い。以前にも話しをしたが、東京タワーでは、カップルで浴衣を着てくると入場料が無料という企画をやっているので、温泉と組み合わせても面白いと思う。浴衣を着るのに着付けができなければ、ボランティアで着付けをお願いできる方もいると思うので、まちづくりし隊に入っていて一緒に活動することも一つの考えだと思ふ。

【グループ みさわ リ♡メイク】

みさわがこうなったらいいなという想いから、みさわリメイクという名前にした。

三沢の歴史を多く語れる人材がいれば、三沢を自慢できるのではと考え、一番身近なものとして、斗南藩にある六十九種草堂と関わってきた廣澤安任について、どのように伝えていけばいいかをまとめた。

六十九種草堂や廣澤安任を子どもに知ってほしいという考えから、自身に置き換えて考えた。自分は、幼少期にミス・ビードル号を紙芝居や劇でやったことを覚えているので、自分たちで紙芝居などをすることで記憶に残るのではないかと考えた。また、単行本や簡単にわかるような冊子を作るということも一つ。



そして、歴史ある場所がどのようにしたら、みんなが楽しめて、三沢が活気づくまちになるかを考えた。まずは体験をして楽しむこと。六十九種草堂は牧場なので、牛の乳搾りを体験したり乳製品作りやソフトクリーム作り、バーベキューをやって体験する。六十九種草堂という歴史があるので、牧草を使ったチャンバラの体験や牧草の人形を作ったり、牧草を食してみることで、六十九種草堂を使った草木染めのできるのではと考えた。ただやるだけではなく、お土産になるものも必要だと思ふ。自分たちで作って販売することを考え、キーホルダーを作って商品化する。

最終的には三沢が元気になって、PR できたらもっと活気づけると思ふ。

◎田中先生から講評◎

NHK の大河ドラマで有名な場所なので、これからたくさんの方が訪れると思ふ。また、自分が体験して、印象に残ったことを子どもたちにも伝えるということはとてもいいこと。最後にお土産も付け加えて考えたことは、地元にお金を落としてもらうという意味で活性化になると思ふ。自分たちでまちをにぎやかにするという想いは大事。

◇最後のまとめとして◇

毎回出席率が高くて、とてもいいセミナーだった。市外から来ている人間ではあるが、自分のまちを知ることは大事で、気が付かないことが多い。他から自分のまちを見たときに、まちの良さがわかるのではないかと思ふ。よく言っているのは、アンテナを張らないと自分のものにならないということ。今回の発表にもあったように、三沢のことをよく知らなかったけど、このセミナーを通して、三沢を知る機会となったことは、大きな進展だと思ふ。これからどのようにしていくかというのは、お金も人もいろんな壁があるが、今まで NPO 活動をやってきて言えることは、壁にぶつかったときはネットワーク。例えばネットワークがあると、講師を呼ぶときに安い講師料で引き受けてくれる場合がある。ネットワークがセミナーの一番大きな礎になると思ふ。これから三沢のま

<p>ちをどういう形に持っていくかは、一人ひとりがこういうセミナーで自分たちの気持ちを共有して、ネットワークを作っていくかということが今後のカギになっていくと思う。</p> <p>とても尊敬している先生で、NHKの現代スペシャルでも紹介された、大阪の岸和田でアトム共同保育園の園長先生をやっている市原悟子さんという方がいて、青森や弘前に何度か来ているが、市原さんは、保育園を経営しているも、経営というのではなく、人が人を支え、一緒に成長していくのを楽しみたいという考えを持っている。今回のセミナーで、人と人がつながって行政も一緒に成長していかなくはないということを実感した。セミナーに参加した皆さんの笑顔を見ることが元気の源になった。これから、今できた形をどう活かしていくか、うまく持っていけば素晴らしいものができるのではないかと思います。</p>
--

【所感】

全5回のセミナーで、女性の目線で三沢市の魅力を引き出すグループワークをしたが、まちを活性化させたい、元気にしたいという想いは共通して一緒であった。お互いに知恵を出し合っ、意見を共有し合えたので、三沢の魅力をまとめられたと思う。次年度は、参加者が集めた情報をたくさんの方に発信できるよう、伝え方の方法も議論する必要がある。このネットワークを大事にして、今後もまちづくりにつながることをしていきたい。

以上、平成25年3月15日（金）開催の「まち・きらきらセミナー」の概要報告といたします。